

# 株式会社 都市環境 環境経営レポート

対象期間（2019年6月～2020年5月）編



2020年 9月1日発行（2019年度版）

## もくじ

1	組織の概要	1
2	認証・登録対象範囲	1
3	情報開示項目	1～2
4	環境経営方針	3
5	環境経営目標とその実績及び評価	4～8
6	3箇年度(2017～2019年度)の環境経営目標の実績	9～12
7	環境経営計画及びその取組結果とその評価	13～15
8	環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	16～17
9	代表者による全体評価と見直しの結果	18
10	次年度の環境経営目標	19
11	次年度の環境経営計画	20～22

## 1. 組織の概要

(1) 事業場名及び代表者

株式会社都市環境 代表取締役 齋藤高照

(2) 所在地

本社・資材置場 〒957-0062 新潟県 新発田市 富塚町 2丁目1002番地

駐 車 場 〒957-0062 新潟県 新発田市 弓越 726-1

(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先 : 電話 0254-22-6337 FAX 0254-23-6308

環境管理責任者 専務取締役 小林 勝彦 E-mail kobayashi@toshikankyo.com

事務局担当者 常務取締役 齋藤 剛寛 E-mail Saito-t@toshikankyo.com

(4) 事業内容

ア 浄化槽清掃業、イ 浄化槽保守点検業、ウ 産業廃棄物収集運搬業、エ 一般廃棄物収集運搬業、

オ 一般建設業(土木、とび・土工、管、しゅんせつ、機械器具設置、解体、電気工事業)

カ 下水道処理施設管理業、キ 建築物貯水槽清掃業、ク 建築物排水管清掃業、

ケ 道路側溝等清掃業務

## 2. 認証・登録対象範囲

株式会社都市環境の全組織、全活動

## 3. 情報開示項目

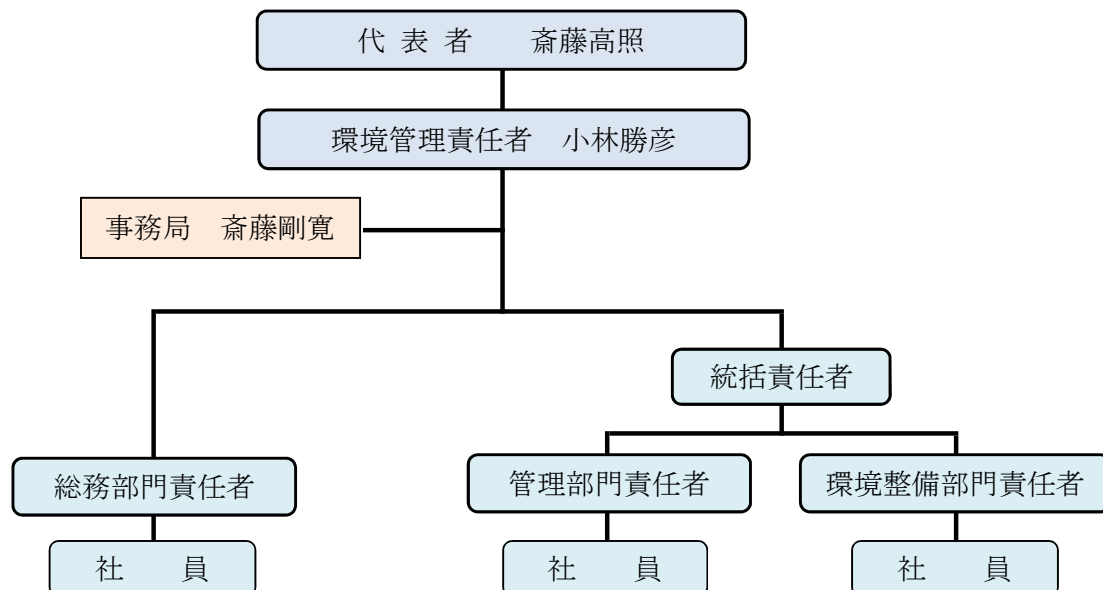
(1) 法人設立年月日 : 1983年9月28日(創業 1958年)

(2) 資 本 金 : 1,500 万円

(3) 事業規模

活動規模	単 位	2017年度	2018年度	2019年度
従業員数	人	61	60	64
売上高	百万円	652	651	671
本社床面積	m <sup>2</sup>	283.5	283.5	283.5

(4) EA21 実施体制図



## (5) 許可の内容

## ① 産業廃棄物収集運搬業

## 【新潟県】

許可番号	01501034436		
許可年月日～有効期限	2015年10月30日～2022年9月30日（優良基準適合認定）		
事業計画の概要	産業廃棄物の収集運搬		
事業の範囲	収集・運搬（積替え・保管を除く。） 廃プラスチック類、木くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類（以上、石綿含有産業廃棄物を除く。）、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず（以上、水銀使用製品産業廃棄物を含み、水銀含有ばいじん等を除く。）		
施設等の状況	強力吸引車 12t 1台	トラック車 3t 1台	
	強力吸引車 6t 1台	トラッククレーン車 2t 1台	
	強力吸引車 5t 1台	ダンプトラック車 2t 1台	
	強力吸引車 4t 1台	塵芥車 2t 1台	
	コンテナ車 4t 1台	普通貨物車 1t 1台	
	バキューム車 3t 1台		
運搬実績（年度は4月～翌年3月）	2019年度	2,474.8 t	

## 【山形県】

許可番号	0609034436		
許可年月日～有効期限	2015年5月31日～2022年5月30日（優良基準適合認定）		
事業計画の概要	産業廃棄物の収集運搬		
事業の範囲	収集・運搬（積替え・保管なし。） 汚泥（特別管理産業廃棄物であるものを除く。）		
施設等の状況	強力吸引車 12t 1台	強力吸引車 5t 1台	
	強力吸引車 6t 1台	強力吸引車 4t 1台	
運搬実績（年度は4月～翌年3月）	2019年度	0 t	

## ② 一般廃棄物処理業【新発田市】

許可番号	環 第 784 号 - 2		
許可年月日～有効期限	2019年8月1日～2021年7月31日		
事業計画の概要	一般廃棄物の収集運搬		
事業の範囲	収集・運搬（積替え・保管を含む。） 事業活動により生じる一般廃棄物及び一般家庭から一時的に大量に出るごみ		
施設等の状況	積替え・保管面積 37.6 m <sup>2</sup>	保管上限量 72.4 m <sup>3</sup>	
	コンテナ車 4t 1台	トラッククレーン車 2t 1台	
	ダンプトラック車 2t 1台	塵芥車 2t 1台	
運搬実績（年度は4月～翌年3月）	2019年度	24.5 t	

## ③ 一般建設業【新潟県】

許可番号	第 21631 号		
許可年月日～有効期限	2017年1月17日～2022年1月16日		
建設業の種類	土木、とび・土工、管、しゅんせつ、機械器具設置、電気、解体工事業		
工事実績（年度は6月～翌年5月）	2019年度	59.0 件	

# 株式会社都市環境 環境経営方針

## <環境理念>

株式会社都市環境は、飯豊連峰を源とする清流加治川の恩恵を受けた緑豊かなこの地で、『人とより良い環境の共生を求めて』をモットーに、浄化槽保守点検業務、公共下水道関連業務、廃棄物収集運搬業務などの環境関連業務を営んでおります。企業としての活動が二酸化炭素の排出などにより地域及び地球環境に一定の影響を与えていること及び当社の事業活動を踏まえ、温暖化の防止や水環境の保全に積極的に取り組み、持続可能な循環型社会を目指して以下の項目を継続的に取り組んでいくことを誓約します。

## <行動指針>

1. 次の事項について環境経営目標・環境経営計画を定め、活動を行うとともに環境経営の継続的な改善に努めます。
  - ① 二酸化炭素排出量の削減  
電力の消費や業務車両の燃料消費などに伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
  - ② 廃棄物排出量の削減  
廃棄物排出量の抑制に努めます。
  - ③ 総排水量の削減  
水使用量の節約に努めます。
  - ④ 化学物質の適正使用  
化学物質の適正な使用に努めます。
  - ⑤ 業務を通じた環境活動の推進  
受託廃棄物のリサイクル率の向上や水質浄化業務を推進します。
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
3. 本環境経営方針は、全ての従業員に周知します。

制定日：2014年 6月 1日

改定日：2019年 8月 5日

代表取締役 齋藤高照

## 5. 環境経営目標とその実績及び評価

### (1) 過去の実績

(各年度は6月～翌年5月)

項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度
購入電力量	kwh	47,992	48,804	44,975
ガソリン使用量	ℓ	32,764	34,539	36,135
軽油使用量	ℓ	73,718	77,121	79,671
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	296,078	310,303	318,709
水使用量	m <sup>3</sup>	554	592	687

### (2) 環境経営目標

電力に係る二酸化炭素排出係数は東北電力の2015年調整後実排出係数0.559kg-CO<sub>2</sub>/kwhを使用。

項目	単位	基準年実績	目標値						
			(△改善・▽削減)						
			2016年度	2017年度	2018年度	2019年度			
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	全体	kwh	47,992	47,752	-	-		
			削減率		▽ 0.5%				
		社屋	kwh	46,101	-	45,640	45,409		
			削減率			▽ 1.0%	▽ 1.5%		
	駐車場	kwh	1,891	-	1,872	1,863			
		削減率			▽ 1.0%	▽ 1.5%			
	燃費改善	ガソリン車	km/ℓ	12.11	12.23	12.35	12.47		
			改善率		△ 1.0%	△ 2.0%	△ 3.0%		
		軽油車	バキューム車	km/ℓ	3.46	(5.13)	-	5.23	5.28
				改善率				△ 2.0%	△ 3.0%
強力吸引車			km/ℓ	(1.47)	3.49	-	1.50	1.51	
			改善率				△ 1.0%	△ 2.0%	△ 3.0%
高压洗浄車	km/ℓ	(3.46)		-	3.53	3.56			
	改善率				△ 2.0%	△ 3.0%			
他作業車	km/ℓ	6.14	6.20	-	6.26	6.32			
	改善率				△ 1.0%	△ 2.0%	△ 3.0%		
二酸化炭素総排出量		kg-CO <sub>2</sub>	296,078	-	-	-			
水使用量の削減	全体	m <sup>3</sup>	554	551	-	-			
		削減率	(2016年度実績)	▽ 0.5%					
	事務所	m <sup>3</sup>	286	-	283	282			
		削減率	(2017年度実績)		▽ 1.0%	▽ 1.5%			
作業用	m <sup>3</sup>	306	-	306	306				
	削減率	(2017年度実績)		0.0%	0.0%				
受託産業廃棄物の再資源化の促進		再資源化率	73.7	74.2	74.7	75.2			
		%	(1279.5/1736.2)	△ 0.5%	△ 1.0%	△ 1.5%			
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進		再資源化率	39.6	-	-	40.6			
		%	(過去3箇年の平均)			△ 1.0%			
可燃一般廃棄物の排出量の削減		kg	1,736	1,719	1,701	1,684			
		削減率			▽ 1.0%	▽ 2.0%	▽ 3.0%		
グリーン購入の推進		品目累積値	17	18	18	18			

注) 1. 化学物質は、自らの判断では削減できないため、目標は設定せず、適正管理を定期的に確認します。

2. 年度とは当社の会計年度(6月～翌年5月)である。

## (3) 環境経営目標の実績 (対象期間2019年6月～2020年5月)

電力に係る二酸化炭素排出係数は東北電力の2015年調整後実排出係数0.559kg-CO<sub>2</sub>/kwhを使用。

項 目		単 位	基準年実績	2019年度 (△改善 ▽削減)			
				(△・▽目標達成、▲・▼目標未達成)			
			2016年度	目標値	実績値	実績評価	
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	全 体	kwh	47,992	-	44,940	-
			削減率			▽ 6.4%	
		社 屋	kwh	46,101	45,409	43,658	○
			削減率		▽ 1.5%	▽ 5.3%	
		駐 車 場	kwh	1,891	1,863	1,282	○
			削減率		▽ 1.5%	▽ 32.2%	
	燃費改善	ガソリン車	km/ℓ	12.11	12.47	13.61	○
			改善率		△ 3.0%	△ 12.4%	
		バキューム車	km/ℓ	5.13	5.28	5.54	○
			改善率		△ 3.0%	△ 8.0%	
		強力吸引車	km/ℓ	1.47	1.51	2.08	○
			改善率		△ 3.0%	△ 41.5%	
		高压洗浄車	km/ℓ	3.46	3.56	3.63	○
			改善率		△ 3.0%	△ 4.9%	
	他 作業車	km/ℓ	6.14	6.32	6.86	○	
改善率		△ 3.0%		△ 11.7%			
二酸化炭素総排出量		kg-CO <sub>2</sub>	296,078	-	297,060	-	
					▲ 0.3%		
水使用量の削減	全 体	m <sup>3</sup>	(592)	-	(524)	-	
		削減率	(2017年度実績)		(▽ 11.5%)		
	事 務 所	m <sup>3</sup>	286	282	209	○	
		削減率	(2017年度実績)	▽ 1.5%	▽ 26.9%		
	作 業 用	m <sup>3</sup>	306	306	315	×	
		削減率	(2017年度実績)	0.0%	▲ 3.0%		
受託産業廃棄物の再資源化の促進		再資源化率	73.7	75.2	93.7	○	
		%	(1279.5/1736.2)	△ 1.5%	△ 20.0%		
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進		再資源化率	39.6	40.6	67.2	○	
		%	(過去3箇年の平均)	△ 1.0%	△ 27.6%		
可燃一般廃棄物の排出量の削減		kg	1,736	1,684	1,517	○	
		削減率		▽ 3.0%	▽ 12.6%		
グリーン購入の推進		品目累積値	17	18	18	○	

注) 1. 化学物質は、自らの判断では削減できないため、目標は設定せず、適正管理を定期的を確認します。

2. 年度とは当社の会計年度(6月～翌年5月)である。

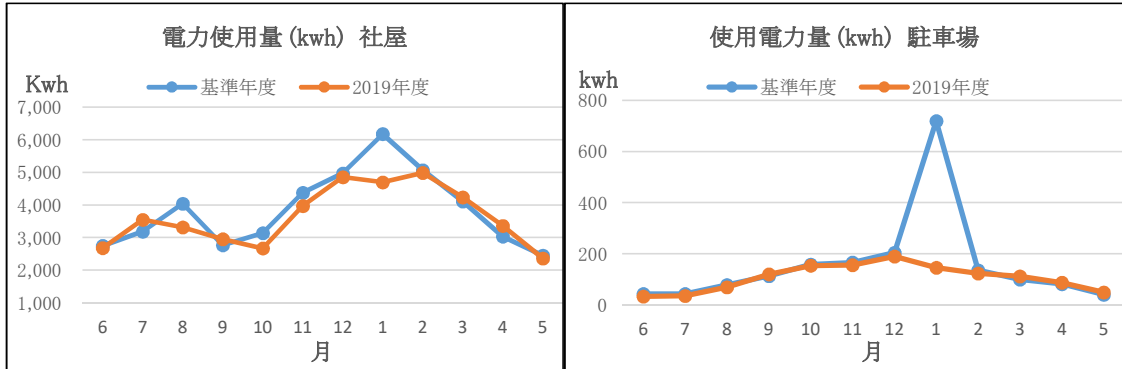
(4) 環境経営目標の実績の評価

対象期間(2019年6月～2020年5月)の環境経営目標の実績の評価は以下のとおりです。

1) 電力使用量の削減

環境経営目標は、基準年度(2016年度)の実績値を基準として、社屋 46,101kwhの1.5%削減で45,409kwh、駐車場 1,891kwhの1.5%削減で1,863kwhと設定をした。

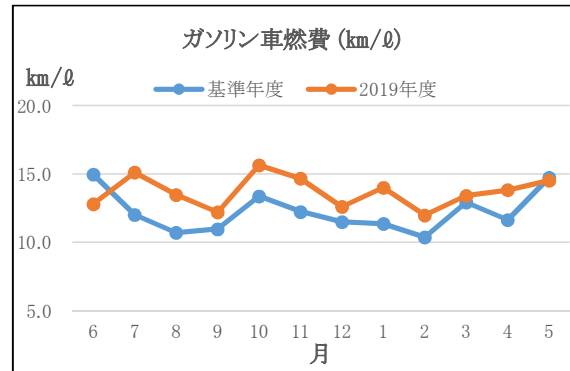
実績では社屋 5.3%削減の43,658kwh、また駐車場 32.2%削減の1,282kwhと共に目標を達成したが、下記のグラフに示すとおり、冬期間での減少が大きく影響したことが窺える。



2) ガソリン車両の燃費改善

環境経営目標は、基準年度(2016年度)の実績値12.11km/ℓの3.0%向上で12.47km/ℓ以上と設定し、12.4%向上の13.61km/ℓと目標を達成しました。

エコ運転の意識向上と車両の入替えが相乗効果として現れた結果である。



3) 軽油車両の燃費改善

環境経営目標は、各車種(用途)毎の4種類に分類して目標を設定し、取組みました。

3) -1 バキューム車の燃費改善

環境経営目標は、基準年度(2016年度)の実績値5.13km/ℓの3.0%向上で5.28km/ℓ以上と設定し、実績は8.0%向上の5.54km/ℓと目標を達成した。

3) -2 強力吸引車の燃費改善

環境経営目標は、基準年度(2016年度)の実績値1.47km/ℓの3.0%向上で1.51km/ℓ以上と設定し、実績は41.5%向上の2.08km/ℓと目標を達成した。

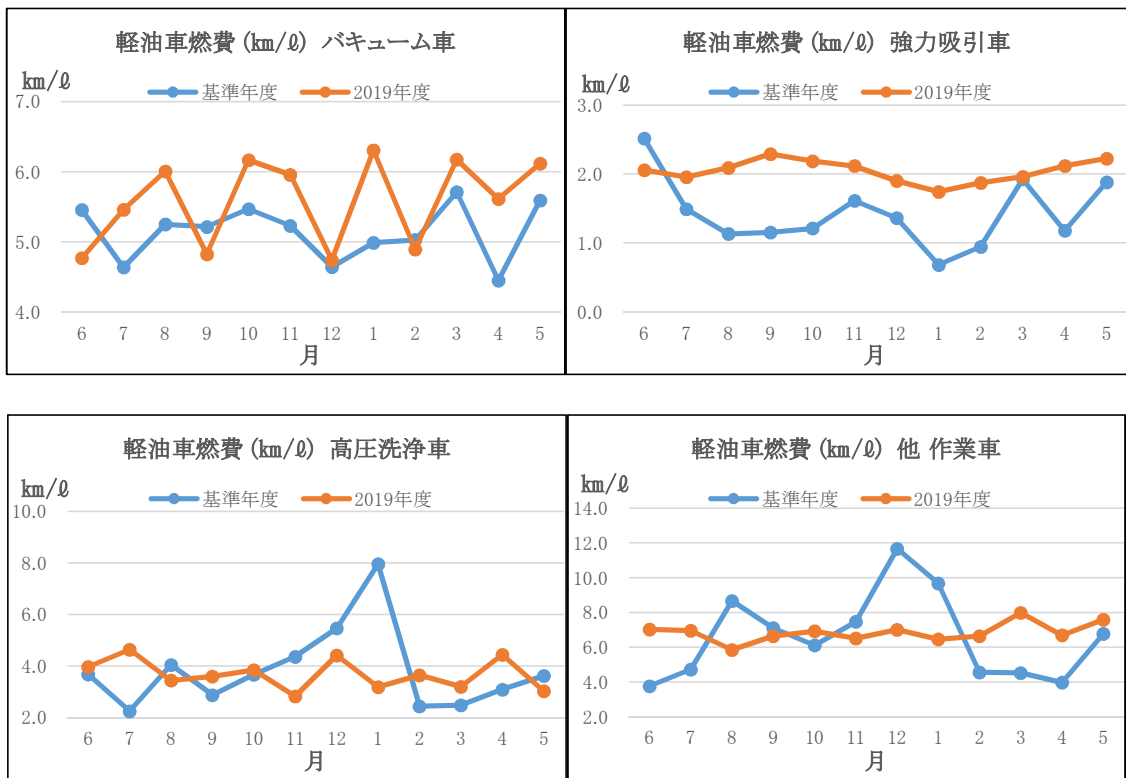
3) -3 高圧洗浄車の燃費改善

環境経営目標は、基準年度(2016年度)の実績値3.46km/ℓの3.0%向上で3.56km/ℓ以上と設定し、実績は4.9%向上の3.63km/ℓと目標を達成した。

強力吸引車と同様に稼働状況が大きく影響するので継続して燃費改善に努める。

3) -4 他 作業車の燃費改善

環境経営目標は、基準年度(2016年度)の実績値6.14km/ℓの3.0%向上で6.32km/ℓ以上と設定し、実績は11.7%向上の6.86km/ℓと目標を達成した。



4) 二酸化炭素総排出量

環境経営目標に設定はしていないが、基準年度(2016年度)296,078 kg-CO<sub>2</sub>に対して、実績は0.3%悪化の297,060 kg-CO<sub>2</sub>であった。

(単位:kg)

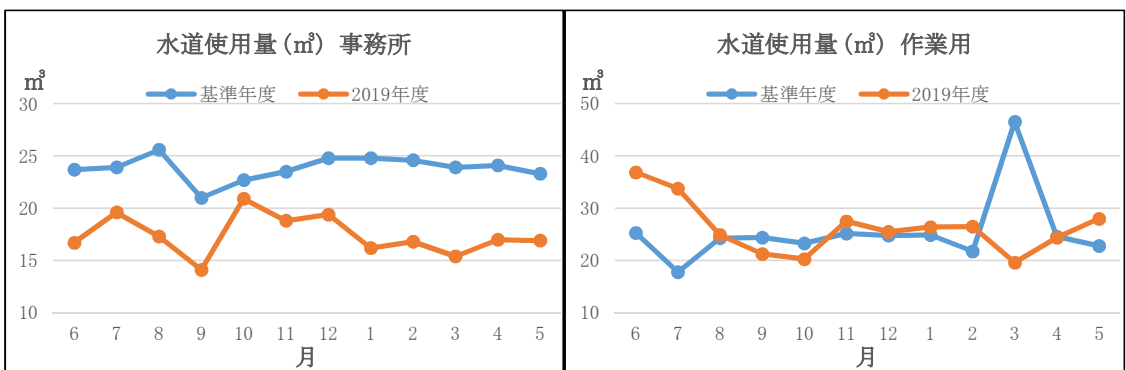
二酸化炭素排出 由来項目	基準年	2019年度	増加 減少	
	2016年度		(▲増 ▼減)	(%)
電力	26,828	25,121	▼	6.4 %
ガソリン	76,013	77,714	▲	2.2 %
軽油	190,193	191,675	▲	0.8 %
灯油	2,470	2,141	▼	13.3 %
LPG	573.8	407.4	▼	29.0 %
CO <sub>2</sub> 排出量 kg-CO <sub>2</sub>	296,078	297,060	▲	0.3 %

5) 水使用量の削減

環境経営目標は、基準年度(2017年度)実績使用量を基として、事務所286 m<sup>3</sup>の1.5%削減で282 m<sup>3</sup>、作業用については現状維持の306 m<sup>3</sup>と設定をし、事務所は26.9%削減の209 m<sup>3</sup>と大幅に目標を達成したが、作業用については3.0%悪化の315 m<sup>3</sup>となり、目標は未達成となった。

しかし、全体の使用量では基準年度(2017年度)と比較して、11.5%削減の524 m<sup>3</sup>となっていることから、事務所と作業用に分けたことによる取組みに対する意識向上の成果である。

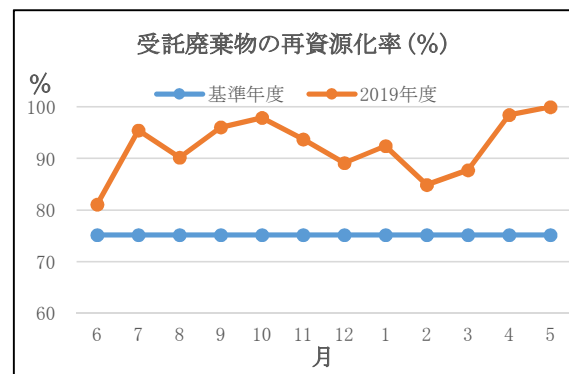
今後も消雪井戸水を作業用水として活用することにより、目標の達成に努める。





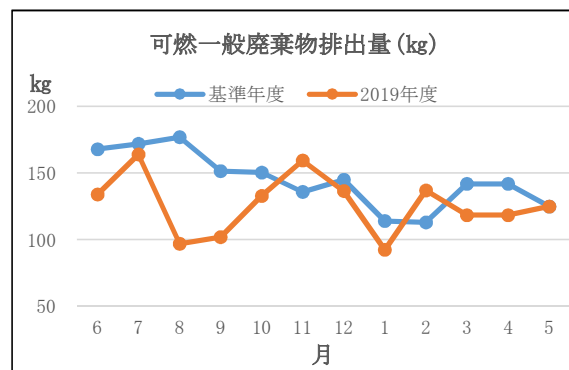
6) 受託産業廃棄物の再資源化の促進

受託産業廃棄物の再資源化の環境経営目標は、基準年度(2016年度)の再資源化率73.7%に対し、1.5%向上の75.2%の再資源化を図ることを目標と設定し、実績では20.0%向上の93.7%で目標を達成した。再資源化の推進に努めた成果が認められた。



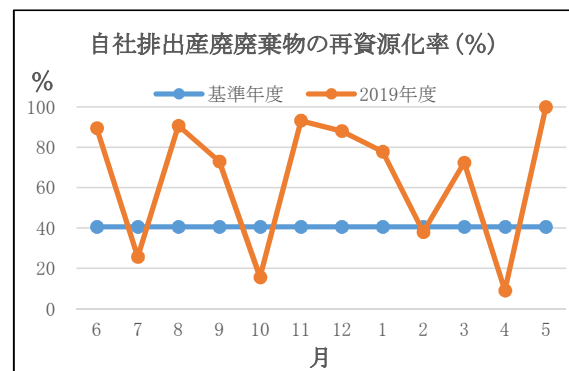
7) 可燃一般廃棄物の削減

可燃一般廃棄物に関する環境経営目標は、基準年度(2016年度)の排出実績1,736kgの3.0%削減の1,684kg以下と設定し、実績は12.6%削減の1,517kgで目標を達成した。リサイクル等に対する更なる意識向上の成果が認められた。



8) 自社排出産業廃棄物の再資源化の促進

自社排出産業廃棄物の再資源化の環境経営目標は、2016年度～2018年度の3箇年平均再資源化率 39.6%に対し、1.0%向上の40.6%の再資源化を図ることを目標と設定し、実績では27.6%向上の 67.2%で目標を達成した。



9) グリーン購入の推進

主として文房具類のグリーン商品の購入品目数を目標としています。目標値の18品目以上を満たし、目標を達成した。

### 6.3 3箇年度(2017～2019年度)の環境経営目標の実績

2016年度を基準年度として取組んだ3箇年度(2017年6月～2020年5月)の結果は以下のとおりであり、また当社の事業活動における地球温暖化に影響を及ぼす項目(電気・車両燃料他)と二酸化炭素排出量についての詳細は次頁以降に記すとおりです。

電力に係る二酸化炭素排出係数は東北電力の2015年調整後実排出係数0.559kg-CO<sub>2</sub>/kwhを使用。

項 目		単 位	基準年度	(△・▽: 改善、削減 ▲・▼: 改悪、増加) (○: 目標達成 ×: 目標未達成)			
			2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	全 体	kwh	47,992	48,804	44,975	44,940
			削減率		▲ 1.7% ×	▽ 6.3% ○	▽ 6.4% ○
		社 屋	kwh	46,101	45,981	43,552	43,658
			削減率		▽ 0.3% ×	▽ 5.5% ○	▽ 5.3% ○
		駐 車 場	kwh	1,891	2,823	1,423	1,282
			削減率		▲ 49.3% ×	▽ 24.7% ○	▽ 32.2% ○
	燃費改善	ガソリン車	km/ℓ	12.11	12.36	13.48	13.61
			改善率		△ 2.1% ○	△ 11.3% ○	△ 12.4% ○
		全 体	km/ℓ	4.05	3.78	4.07	4.29
			改善率		▼ 6.7% ×	△ 0.5% ×	△ 5.9% ○
		バキューム車	km/ℓ	5.13	5.91	5.43	5.54
			改善率		△ 15.2% ○	△ 5.8% ○	△ 8.0% ○
		強力吸引車	km/ℓ	1.47	1.51	2.13	2.08
			改善率		△ 2.7% ○	△ 44.9% ○	△ 41.5% ○
		高压洗浄車	km/ℓ	3.46	3.35	3.69	3.63
			改善率		▼ 3.2% ×	△ 6.6% ○	△ 4.9% ○
他 作業車	km/ℓ	6.14	5.06	6.44	6.86		
	改善率		▼ 17.6% ×	△ 4.9% ○	△ 11.7% ○		
二酸化炭素総排出量		kg-CO <sub>2</sub>	296,078	310,303	318,709	297,060	
				▲ 4.8%	▲ 7.6%	▲ 0.3%	
水使用量の削減	全 体	m <sup>3</sup>	554	592	687	524	
		削減率	(2016年度実績)	▲ 6.9% ×	▲ 24.0% ×	▽ 5.4% ○	
	事 務 所	m <sup>3</sup>	286	/	229	209	
		削減率	(2017年度実績)	/	▽ 19.9% ○	▽ 26.9% ○	
	作 業 用	m <sup>3</sup>	306	/	458	315	
		削減率	(2017年度実績)	/	▲ 49.7% ×	▲ 3.0% ×	
受託産業廃棄物の再資源化の促進		再資源化率	73.7	73.2	85.2	93.7	
		%		▼ 0.5% ×	△ 11.5% ○	△ 20.0% ○	
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進		再資源化率	39.6	/	/	67.2	
		%		/	/	△ 27.6% ○	
可燃一般廃棄物の排出量の削減		kg	1,736	1,715	1,623	1,517	
		削減率		▽ 1.2% ○	▽ 6.5% ○	▽ 12.6% ○	
グリーン購入の推進		品目累積値	17	18	18	18	

注) 年度とは当社の会計年度(6月～翌年5月)である。

### 1) 電力使用量の削減

電力の使用量については【グラフ-1】に示すとおり、基準年度(2016年度)に比べ

#### 【全使用量】

- ・ 2017年度では1.7%増加の48,804kwh
- ・ 2018年度では6.3%削減の44,975kwh
- ・ 2019年度では6.4%削減の44,940kwh

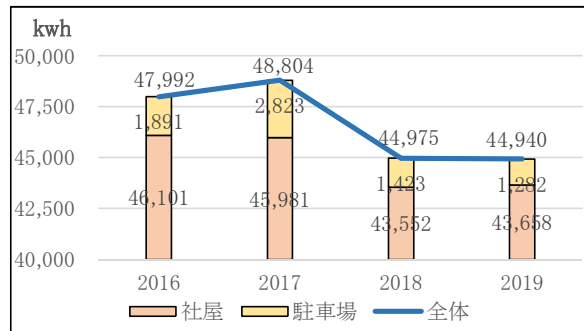
#### 【社屋使用量】

- ・ 2017年度では0.3%削減の45,981kwh
- ・ 2018年度では5.5%削減の43,552kwh
- ・ 2019年度では5.6%削減の43,658kwh

#### 【駐車場使用量】

- ・ 2017年度では49.3%増加の2,823kwh
- ・ 2018年度では24.7%削減の1,423kwh
- ・ 2019年度では32.2%削減の1,282kwh

【グラフ-1】 電力使用量(kwh)



という結果でした。

電力使用量の削減は、基準年度(2016年度)に比べ2017年度では目標を未達成であったため、【社屋】と【駐車場】に分割して使用量を調査し、2017年度での目標未達成の理由を明らかにし、2018年度以降の取組みとした。

こまめな消灯、冷暖房の温度設定など日々の取組みへの努力はもちろんのこと、事務所照明の「LED化」、屋外照明の「照度感知器」と消雪設備の「降雪検知器」を設置するなどの設備の改善も行なったが、取組みの結果から駐車場における消雪用井戸ポンプの稼働頻度が大きな要因であることが理解できた。

### 2) ガソリン車両の燃料消費量と燃費改善

ガソリン車両の燃料消費量と燃費改善については【グラフ-2】に示すとおり、基準年度(2016年度)に比べ

#### 【燃料消費量】

- ・ 2017年度では5.53%増加の34,539ℓ
- ・ 2018年度では10.5%増加の36,135ℓ
- ・ 2019年度では2.3%増加の33,498ℓ

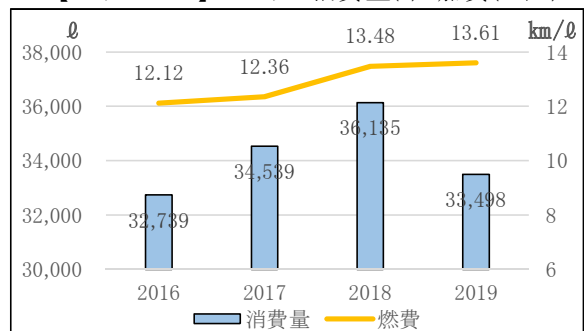
#### 【燃費】

- ・ 2017年度では2.1%改善の12.36 km/ℓ
- ・ 2018年度では11.3%改善で13.48 km/ℓ
- ・ 2019年度では12.4%改善で13.61 km/ℓ

と全ての年度で改善した。

日々の業務での移動車両であり、使用状況では近距離の移動が主となるため、燃費改善では厳しい点多々あるが、従事者の省エネに対する意識向上はもとより、省燃費車両の導入が燃費改善に貢献した。

【グラフ-2】 ガソリン消費量(ℓ)と燃費(km/ℓ)



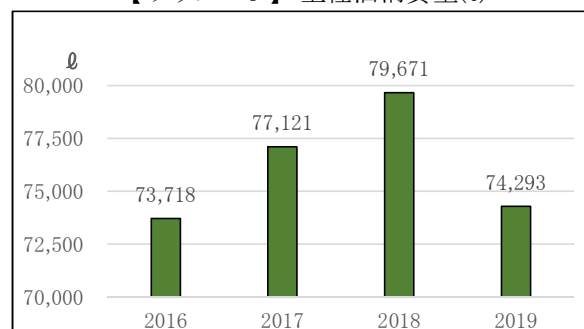
### 3) 軽油車両の全燃料消費量

軽油車両の燃料消費量は【グラフ-3】に示すとおり基準年度(2016年度)に比べ

- ・ 2017年度では4.6%増加の77,121ℓ
- ・ 2018年度では8.1%増加の79,671ℓ
- ・ 2019年度では0.8%増加の74,293ℓ

と全ての年度で増加の傾向を示している。

【グラフ-3】 全軽油消費量(ℓ)



### 3) -2 軽油車両(車種(用途)毎)の燃料消費量と燃費改善

燃費改善については2017年度ではバキューム車、強力吸引車、高圧洗浄車の3車種を一括とした【バキューム車】と【他 作業車】の2項目として目標を設定し取組んだ結果、未達成となったので2018、2019年度では各車種(用途)毎の4種類に分類して目標を設定し、取組みました。

車種(用途)毎の燃料消費量については【グラフ-4】に示すとおり、基準年度(2016年度)に比べ

#### 【バキューム車】

- ・ 2017年度では17.6%削減の20,382ℓ
- ・ 2018年度では10.1%削減の22,232ℓ
- ・ 2019年度では8.2%削減の22,700ℓ

#### 【強力吸引車】

- ・ 2017年度では18.7%増加の24,782ℓ
- ・ 2018年度では40.5%増加の29,335ℓ
- ・ 2019年度では22.0%増加の25,466ℓ

#### 【高圧洗浄車】

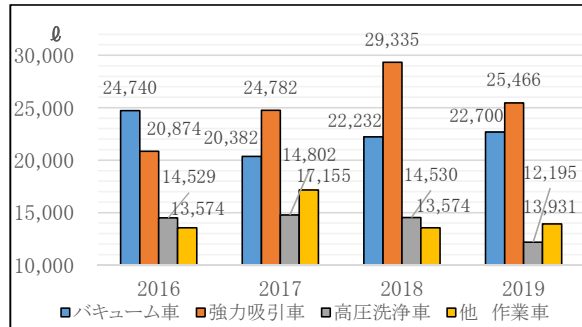
- ・ 2017年度では1.9%増加の14,802ℓ
- ・ 2018年度ではほぼ同量である14,530ℓ
- ・ 2019年度では16.1%削減12,195ℓ

#### 【他 作業車】

- ・ 2017年度では26.4%増加の17,155ℓ
- ・ 2018年度では同量である13,574ℓ
- ・ 2019年度では2.6%増加の13,931ℓ

という結果であり、車種(用途)毎の燃料消費量では各年度毎での変動が著しいことが分かる。

【グラフ-4】車種別軽油消費量(ℓ)



車種(用途)毎の燃費については【グラフ-5】に示すとおり、基準年度(2016年度)に比べ

#### 【バキューム車】

- ・ 2017年度では15.2%改善で5.91 km/ℓ
- ・ 2018年度では5.8%改善で5.43 km/ℓ
- ・ 2019年度では8.0%改善で5.54 km/ℓ

#### 【強力吸引車】

- ・ 2017年度では2.7%改善で1.51 km/ℓ
- ・ 2018年度では44.9%改善で2.13 km/ℓ
- ・ 2019年度では41.5%改善で2.08 km/ℓ

#### 【高圧洗浄車】

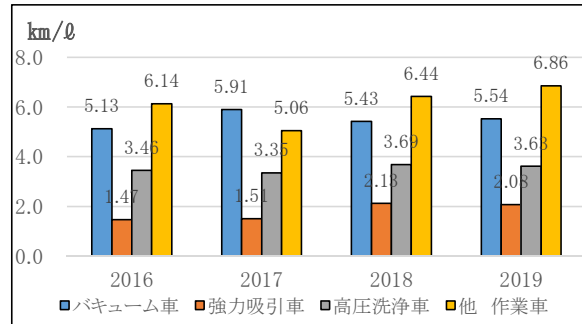
- ・ 2017年度では3.0%悪化で3.35 km/ℓ
- ・ 2018年度では6.6%改善で3.69 km/ℓ
- ・ 2019年度では4.9%改善で3.63 km/ℓ

#### 【他 作業車】

- ・ 2017年度では17.6%悪化で5.06 km/ℓ
- ・ 2018年度では19.5%改善で6.44 km/ℓ
- ・ 2019年度では11.7%改善で6.86 km/ℓ

という結果であり、2018、2019年度では全車種で目標を達成することができた。これは、各車種(用途)毎に分類して明確化を図り、取組んだ成果である。

【グラフ-5】車種別軽油車両燃費(km/ℓ)



バキューム車、強力吸引車、高圧洗浄車の3車種では特徴として作業時においてもエンジン出力を使用する車両であるため、業務受託の状況(繁閑)は勿論ではあるが業務内容等の稼働条件が直接的に燃料消費量(燃費)に大きく影響する。

そのため燃費改善では難しい面もあるが、特にバキューム車、強力吸引車の2車種については全軽油消費量の大半を占めることから、継続性を持った従事者のエコ運転に対する取組みと計画性を持った省燃費車両の導入を推進したい。

#### 4) 項目毎の二酸化炭素排出量及び二酸化炭素総排出量

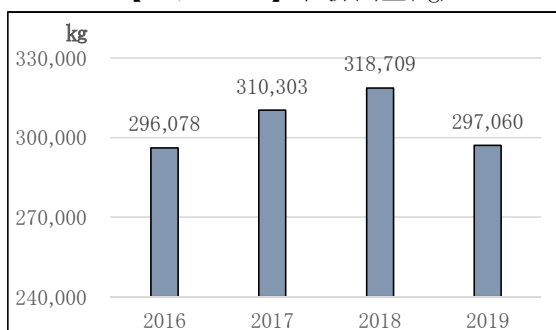
事業活動における地球温暖化に影響を及ぼす二酸化炭素排出量については、環境経営目標には設定していないが、総排出量とその内訳(各項目毎の排出量)は以下に記すとおりです。

二酸化炭素量の総排出量を【グラフ-6】に、3箇年での各項目毎の排出割合(平均)を【グラフ-7】に、各項目毎の排出量(内訳)について【表-1】に示した。

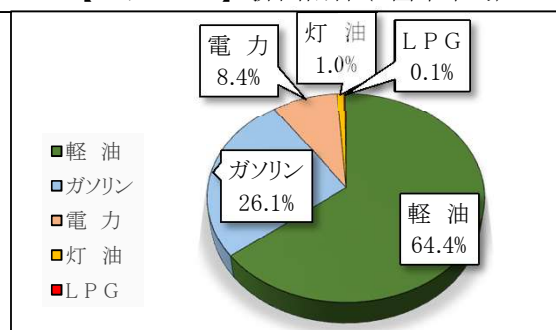
総排出量は【グラフ-6】に示すとおり、基準年度(2016年度)に比べて削減には至らずに増加の傾向にあり、前記のガソリン使用量【グラフ-3】及び軽油使用量【グラフ-6】と総排出量【グラフ-6】のグラフが同様な傾向を示すこと、また【グラフ-7】で示すとおり、ガソリンと軽油(車両燃料)の使用量が総排出量の約90%を占めることから、車両燃料が二酸化炭素量排出量に大きく影響していることが理解できた。

現実的には厳しい点も多々あるが、少しでも削減する(できる)ように、日々の努力が成果となって表れることを目標にして今後も取組みたい。

【グラフ-6】 総排出量(kg)



【グラフ-7】 排出割合 (3箇年平均)



【表-1】

単位 (kg-CO<sub>2</sub>)

二酸化炭素排出 由来項目	基準年度 2016年度	2017年度		2018年度			
		排出量	増減	排出量	増減	排出量	増減
電力	26,828	27,281	1.7% 増	25,141	6.3% 減	25,121	6.4% 減
ガソリン	76,013	80,131	5.4% 増	83,832	4.6% 増	77,714	2.2% 増
軽油	190,193	198,973	4.6% 増	205,552	8.1% 増	191,675	0.8% 増
灯油	2,470	3,444	39.4% 増	3,780	53.0% 増	2,141	13.3% 減
LPG	573.8	473.8	17.4% 減	403.7	29.6% 減	407.4	29.0% 減
総排出量 kg-CO <sub>2</sub>	296,078	310,303	4.8% 増	318,709	7.6% 増	297,060	0.3% 増

## 7. 環境経営計画及びその取組結果とその評価

環境経営計画を下表に示しました。環境経営計画の実施状況を4半期ごとに5段階評価により点検を行っており、その評価点の平均を下表に示しました。

評価点の低い活動項目については、更に活動の徹底に努めていきます。

### 【総務部門】

環境活動計画		点検結果	担当者コメント (2020.6)	環境管理事務局コメント (2020.6)
活動の管理	エコ安全ドライブの周知	5.0	講習会の資料を基に、エコ運転・安全運転の大切さについて社内研修を実施した。エコ運転の大切さを周知した。	定期的な社内研修実施により、エコ運転・安全運転の徹底に努めて欲しい。
	運転記録簿の管理	4.0		
	安全運転教育の実施	5.0		
	安全運転管理者講習会の受講	5.0	7月25日受講	
電力使用量の削減	空調設定温度 夏季/冬季 28℃以上/20℃以下	4.0	不在・不要箇所の消灯の徹底。適正な空調温度設定を徹底する為、クールビズ・ウォームビズで対応した。定期的なエアコンフィルターの清掃を実施。(年2回)	不在・不要照明の消灯・空調温度設定管理の心掛けが見られた。
	外出時などパソコンのモニター 電源OFF	5.0		
	昼休み、残業時、外出時など 不要照明のこまめな消灯	5.0		
	照明器具見直し(取り外し、 人感型化、高効率化、LED化等)	4.5		
灯油使用量の削減	灯油暖房温度設定20℃以下	4.5	適正温度管理の徹底と最小限の使用を心掛ける。	冬期間の節約が重要である。
ガス使用量の削減	ガス湯沸し器の使用節約	5.0		
水使用量の削減	蛇口付近への節水シール貼付	5.0	こまめな蛇口の開閉を心掛け、使用量の削減に努めた。	意識向上により削減につながっている。継続維持し、更なる向上に努めて欲しい。
	手洗い水使用の無駄の排除	5.0		
	水漏れがないことを定期的に確認	5.0		
グリーン購入の推進	グリーン商品の情報把握 と積極購入	5.0	積極的に購入を継続している。	限られた範囲となるが、積極的に推進していた。
可燃一般廃棄物の排出削減	両面コピーの徹底 片面コピー済の裏面使用	5.0	コピー用紙両面使用を徹底し、社内伝達方法を電子化にし、ペーパーレスに努めた。	日々の努力が削減につながっている。
	その他紙の分別再資源化の徹底	5.0		
平均		4.8		

【管理部門】

環境活動計画		点検結果	担当者コメント (2020.6)	環境管理事務局コメント (2020.6)
ガソリン車両 及び軽油車両 の燃費改善	エコ安全ドライブの実践			
	・急発進・急加速を避ける。	5.0	急発進・急ブレーキを極力控えエコ運転・安全運転を励行した。	日々の安定した運転の心掛けにより、削減につながっている。(ガソリン車)
	・ふんわりアクセルを心掛ける。	5.0		
	・シフトアップは早めに。シフトダウンは遅めにする。	5.0		
	・一定速度の走行をする。	5.0		
	・経済速度での走行をする。	5.0		
	・不要なアイドリング運転の防止	4.0		
	・過度な空調の使い方をしない。	5.0		
	日常整備			
	・タイヤ圧を適正に保つ	5.0	始業前の点検を継続している。	日々の実践が異常の早期発見・事故防止につながる。
	・エンジンオイルの適正な管理	5.0		
	作業管理			
・車両の走行は最短経路を選択	5.0	日々の段取りを考え、適正運行ルートを選択し、極力乗り合わせることにより、車両台数減少を心掛けた。	日々の段取りが業務の効率化につながっている。	
・運転記録簿の記帳	4.0			
水使用量の削減	蛇口付近への節水シール貼付	5.0	用途別に井戸水と上水道を使い分け、上水の使用量の削減に努めた。	取組みにより上水使用量の削減が結果として表れている。
	手洗い水使用の無駄の排除	5.0		
	洗車ホースへのストッパーの設置・使用	5.0		
一般廃棄物の再資源化率の向上	分別による再資源化を心掛け、排出者にも協力を求める。	4.5	分別による再資源化を徹底した。	適正に実践していた。
化学物質の適正管理	購入のチェックと毎月末の棚卸	5.0	月毎で購入量と在庫のチェックを実行した。	適正に実践していた。
自社排出産業廃棄物の再資源化の向上	分別による再資源化の徹底	5.0	分別による再資源化を徹底した。	適正に実践していた。
平均		4.9		

【環境整備部門】

環境活動計画		点検結果	担当者コメント (2020.6)	環境管理事務局コメント (2020.6)
軽油車両 の燃費改善  (バキューム車 等の燃費改善)	エコ安全ドライブの実践			
	・急発進・急加速を避ける。	5.0	駐停車時のエンジン停止・エコ運転を心掛けて実践している。	作業時もエンジンが稼働している ので燃費改善には現実的に厳しい 車両もあるが、取組みの実践・ 継続。
	・ふんわりアクセルを心掛ける。	5.0		
	・シフトアップは早めに。シフトダウンは遅めにする。	5.0		
	・一定速度の走行をする。	5.0		
	・経済速度での走行をする。	5.0		
	・不要なアイドリング運転の防止	4.0		
	・過度な空調の使い方をしない。	5.0		
	日常整備			
	・タイヤ圧を適正に保つ	5.0	始業前点検を継続して実施している。	大型車両等もあり、重大事故に繋 がる可能性もあるので、細心の注 意を払い継続が必要。
・エンジンオイルの適正な管理	5.0			
・ブレーキエアタンクの水抜きを怠らない。	5.0			
作業管理				
・車両の走行は最短経路を選択	5.0	作業現場の事前確認・適正運行ルートの選択と従事者の事前打合せの徹底に努めた。	事前の段取りが業務の効率化に もつながるので継続してもらいた い。	
・運転記録簿の記帳	4.0			
水使用量 の削減	蛇口付近への節水シール貼付	5.0	井戸水使用を徹底することで、上水使用量の削減に努めている。	現状の使用量を確認し、上水使用量削減の取組みにより成果が表れている。継続維持していつてもらいたい。
	手洗い水使用の無駄の排除	5.0		
	洗車ホースへのストッパーの設置・使用	5.0		
受託 産業廃棄物の再資源化率の向上	・再資源化を行う処理業者がある場合は、再資源化を行う業者に処理委託するよう排出者に紹介することに努める。	5.0	中間処理業者の最終処分先について、再資源化への働きかけを継続している。	再資源化について中間処理業者と協議を更に進めてもらいたい。
自社排出産業廃棄物の再資源化の向上	分別による再資源化の徹底	4.5	分別による再資源化を徹底した。	適正に実践していた。
平均		4.9		



## 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規の遵守状況を自ら点検した結果、下表のとおり全て遵守していることを確認しました。

なお、過去3年間、法令違反等について行政当局からの指摘もなく、また、住民等からの苦情や訴訟も皆無です。

環境法規	主な責務又は遵守事項	適合状況
家電リサイクル法	再商品化する者に適切に引渡し、料金の支払に応じる。	適合
小型家電リサイクル法	分別して排出し、認定業者等確実に運搬・再資源化できる者に引き渡す。	適合
建設業法	営業所を管轄する知事に許可申請を行う。	適合
建設リサイクル法	建設資材廃棄物の再資源化により得られた建設資材を使用するよう努める。	適合
自動車リサイクル法	自動車の所有者は、使用済み自動車を引取業者に引き渡す。 使用済み自動車のリサイクルに要する費用を負担する。	適合
水質汚濁防止法	水質事故時は、応急措置を実施し事故の状況及び講じた措置の概要を知事に届け出る。	適合
浄化槽法	設置または構造等の変更をしようとするとき届け出る。 保守点検、清掃の技術上の基準に従って行う。 年1回以上水質に関する検査を受ける。(法第11条検査) 業を行う区域の知事(政令市長)に届け出る。(浄化槽保守点検業) 業を行う区域の市町村長の許可を受ける。(一般廃棄物収集運搬業)	適合
新潟県(市)浄化槽保守点検業者の登録に関する条例	知事(政令市長)の登録を受ける 営業所ごとに条例で定める標識を掲示する。 営業所ごとに条例で定める帳簿を備え保存する。	適合
毒物及び劇物取締法	容器に「医薬用外劇物」の表示 飛散、漏えいしない専用の設備で、鍵のかかる場所に保管する 営業所を管轄する保健所に登録する。(毒物劇物一般販売業)	適合
PRTR法	指定化学物質等の性状及び取扱いに関する情報(安全データシート)の提供(受領)	適合
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	1) 収集運搬または処理の委託 産業廃棄物の収集運搬または処理については許可業者に委託。 委託契約書の取り交し、委託契約書は5年間保存する。 管理票は産業廃棄物の種類ごとに交付する。 管理票の保存期間(排出事業者)A票、B2票、D票、E票 :5年保存する。	適合
	交付後90日以内に収運・中間処分の回付がない又は180日以内に最終処分終了の管理票の送付がないときは報告する。 前年の管理票交付等状況報告書を6月末までに提出する。 虚偽の記載をして管理票を交付しない。	適合
	2) 収集運搬業の許可 知事の許可を受ける 水銀使用製品産業廃棄物を含む。	適合
	3) 収集運搬の受託 委託契約書の取り交し、委託契約書は5年間保存する。 産業廃棄物の種類ごとに交付を受ける。 管理票の保存期間(収集運搬業者)B1票、C2票 :5年保存する。 前年の収集運搬実績報告書を6月末までに提出する。	適合

環境法規	主な責務又は遵守事項	適合状況
騒音規制法	特定建設作業の届出	適合
	騒音規制基準の遵守(指定地域内)	
振動規制法	特定建設作業の届出	適合
	振動規制基準の遵守(指定地域内)	
新潟県産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例	産廃処分委託業者の施設稼働状況を確認・記録する。	適合
	不適正処分時の搬入停止・報告等をする。	
建築物における衛生的環境の確保に関する法律	知事の登録を受ける	適合
	清掃作業の基準に従って行う。	
	前年の実績を6月末までに報告する。	
新発田地域広域事務組合 火災予防条例	少量危険物の貯蔵の届出(指定数量の1/5以上指定数量未満の危険物)	適合
	必要な措置を講じる等の貯蔵、取扱いの基準を遵守する。	
フロン排出抑制法	第1種特定製品の定期点検・記録(7.5kw未満につき簡易点検)を実施する。	適合
	第1種特定製品の廃棄時の引取り証明書の交付 (廃棄物処理業者への引渡し時)	
新潟県生活環境の保全等に関する条例	特定施設の設置届、特定建設作業の騒音規制基準の遵守。	適合

## 9. 代表者による全体評価と見直しの結果

2019年度の環境活動の取組について、代表者による全体の評価及びこれを踏まえた見直しに係る指示事項は以下のとおりです。

	点検項目	改定の必要性	指示の内容
見直しに係る指示事項	環境経営方針	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	現行の環境経営方針を維持し、取組むこと。
	環境経営目標	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	① 受託産業廃棄物(汚泥)の再資源化に関して、有機汚泥に特化した再資源化に関する目標として設定すること。 ② 資格取得の推進を環境経営目標として設定すること。 ③ グリーン購入については、環境経営目標として設定はしない。
	環境経営計画	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	現行の環境経営計画を維持し、取組むこと。
	環境経営システム	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	環境経営システムマニュアル(初版)の運用に努めること。
	環境経営実施体制	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	現行の実施体制を維持し、更に全員参加を進めること。
代表者コメント	<p><u>全体の評価</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営目標では水使用量(作業用)の削減が唯一の未達成となったが、業務上で必要な用水であることから業務内容によつての増減は必至のことである。 しかし、用途別に目標を設定して「取組み状況の明確化」と「消雪井戸の活用を推進」した結果、未達成ではあったが減少傾向にあり、従事者の取組みに対する日々の努力の成果として評価する。 今後も環境経営目標の達成に向け、全員参加による推進に努めてもらいたい。</li> </ul> <p><u>指示事項</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 水使用量(作業用)については、消雪井戸を活用した使用量削減の推進に努めること。</li> <li>② 受託産業廃棄物の再資源化については、「有機汚泥」に特化した推進の継続に努めること。</li> <li>③ 積極的な資格取得の推進に努めること。</li> <li>④ グリーン購入については、環境経営目標として設定はしないが、今後も継続して購入に務めること。</li> <li>⑤ 環境経営システムマニュアル(初版)の運用に努めること。</li> </ol>		

## 10. 次年度の環境経営目標

電力に係わる二酸化炭素排出係数は東北電力の2018年度調整後実排出係数0.528kg-CO<sub>2</sub>/kwhを使用

項目		単位	基準年実績 (過去3箇年平均)	目標値 (△改善・▽削減)			
				2020年度	2021年度	2022年度	
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	全体	kwh	(46,240)	(46,101)	(45,963)	(45,823)
			削減率				
		社屋	kwh	44,397	44,264	44,131	43,997
			削減率		▽ 0.3%	▽ 0.6%	▽ 0.9%
		駐車場	kwh	1,843	1,837	1,832	1,826
			削減率		▽ 0.3%	▽ 0.6%	▽ 0.9%
	燃費改善	ガソリン車	km/ℓ	13.15	13.19	13.23	13.27
			改善率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%
		全体	km/ℓ	(4.07)	(4.08)	(4.09)	(4.10)
			改善率				
		バキューム車	km/ℓ	5.62	5.64	5.65	5.67
			改善率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%
		強力吸引車	km/ℓ	1.92	1.93	1.93	1.94
			改善率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%
		高圧洗浄車	km/ℓ	3.68	3.69	3.70	3.71
			改善率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%
	他作業車	km/ℓ	5.98	6.00	6.02	6.03	
改善率		△ 0.3%		△ 0.6%	△ 0.9%		
二酸化炭素総排出量		kg-CO <sub>2</sub>	307,257	-	-	-	
水使用量の削減	全体	m <sup>3</sup>	(601)	(599)	(597)	(596)	
		削減率					
	事務所	m <sup>3</sup>	241	240	240	239	
		削減率		▽ 0.3%	▽ 0.6%	▽ 0.9%	
	作業用	m <sup>3</sup>	360	359	358	357	
		削減率		▽ 0.3%	▽ 0.6%	▽ 0.9%	
受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進		再資源化率 %	51.8	52.8 △ 1.0%	53.3 △ 1.5%	53.8 △ 2.0%	
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進		再資源化率 %	52.8	53.8 △ 1.0%	54.3 △ 1.5%	54.8 △ 2.0%	
可燃一般廃棄物の排出量の削減		kg 削減率	1,619	1,614 ▽ 0.3%	1,609 ▽ 0.6%	1,604 ▽ 0.9%	
資格取得の推進		取得者数 人	-	3	3	3	

- 注) 1. 化学物質は自らの判断で削減できないため、目標設定はせず、適正管理を定期的に確認します。  
 2. 年度とは、当社の会計年度(6月～翌年5月)である。  
 3. 自社排出産業廃棄物については、建設廃棄物とその他の産業廃棄物を区分して管理することは困難なため、全体の産業廃棄物の再資源化として取組む。  
 4. グリーン購入については目標設定せず、今後も継続して購入に務めます。  
 5. 基準年実績(過去3箇年平均)とは、2017年度～2019年度(6月～翌年5月)である。

## 11. 次年度の環境経営計画

次年度の環境活動計画は、本年度の同計画を継続して実施します。

また、これに加え代表者による全体の評価と見直しの結果、以下の5点について指示がありました。

その実現に向け、計画に基づいて活動を進めます。

- ① 水使用量(作業用)については、消雪井戸を活用した使用量削減の推進に努めること。
- ② 受託産業廃棄物の再資源化については、「有機汚泥」に特化した推進の継続に努めること。
- ③ 積極的な資格取得の推進に努めること。
- ④ グリーン購入については、環境経営目標として設定はしないが、今後も継続して購入に努めること。
- ⑤ 環境経営システムマニュアル(初版)の運用に努めること。

部門名：総務部門

項目	環境経営目標	環境活動計画	時期	責任者
活動の管理		エコ安全ドライブの周知	8月	大江 (俊)
		運転記録簿の管理	通年	
		安全運転教育の実施	8月	本間
		安全運転管理者講習会の受講	7月	
二酸化炭素の削減	電力使用量の削減	空調設定温度:夏季/冬季 28℃以上/20℃以下	冷暖房 時期	菱田
		昼休み、残業時、外出時など不要照明のこまめな消灯	通年	
		外出時などパソコンのモニター電源OFF	通年	
		照明器具見直 (取り外し、人感型化、高効率化、LED化など)	通年	
	灯油使用量の削減	暖房温度設定20℃以下	暖房 時期	
	LPガス使用量の削減	湯沸し器の使用節約	通年	
水(上水)使用量の削減		蛇口への節水シールの貼付	通年	岩渕
		手洗い水使用の無駄の排除	通年	
		水漏れがないことを定期的に確認する。	通年	
可燃一般廃棄物の排出削減		両面コピーの徹底・片面コピー済の裏面使用	通年	高橋 (美)
		その他紙の分別再資源化の徹底	通年	

部門名 : 管理部門

項目	環境経営目標	環境活動計画	時 期	責任者
二酸化炭素の削減	エコ安全ドライブの実践  ガソリン使用車両の燃費改善  軽油使用車両の燃費改善	エコ安全ドライブの実践		大沼
		急発進、急加速を避ける。	通年	
		ふんわりアクセルを心掛ける。	8月	
		シフトアップは早めに。シフトダウンは遅めにする。	8月	
		一定速度の走行をする。	冷暖房時期	
		経済速度での走行をする。	通年	
		不要なアイドリング運転を防止する。	通年	
		過度な空調の使い方をしない。	通年	
	日常整備		吉川	
	タイヤ圧を適正に保つ	通年		
	エンジンオイルは適正に管理する。	通年		
	ブレーキエアタンクの水抜きを怠らない。	通年		
	作業管理		阿部	
	営業車・作業用車両の走行は最短経路を選択	通年		
	運転記録簿の記帳	通年		
水(上水)使用量の削減	蛇口への節水シールの貼付	通年	長谷川	
	手洗い水使用の無駄の排除	通年		
	水漏れがないことを定期的に確認する。	通年		
	積極的に井戸水を活用する。	通年		
受託一般廃棄物の再資源化率の向上	排出者へ分別の働きかけに努める。	通年	遠藤	
	回収時の分別チェックに努める。			
自社排出産業廃棄物の再資源化率の向上	分別再資源化の徹底	通年	大倉	

部門名：環境整備部門

項目	環境経営目標	環境活動計画	時期	責任者
二酸化炭素の削減	エコ安全ドライブの実践 ガソリン使用車両の燃費改善 軽油使用車両の燃費改善	エコ安全ドライブの実践		中野
		急発進、急加速を避ける。	通年	
		ふんわりアクセルを心掛ける。	8月	
		シフトアップは早めに。シフトダウンは遅めにする。	8月	
		一定速度の走行をする。	冷暖房時期	
		経済速度での走行をする。	通年	
		不要なアイドリング運転を防止する。	通年	
		過度な空調の使い方をしない。	通年	
	日常整備	タイヤ圧を適正に保つ	通年	小林(慎)
		エンジンオイルは適正に管理する。	通年	
		ブレーキエアタンクの水抜きを怠らない。	通年	
		作業管理		
		営業車・作業用車両の走行は最短経路を選択	通年	
		運転記録簿の記帳	通年	
水(上水)使用量の削減	蛇口への節水シールの貼付	通年	大江(亮)	
	手洗い水使用の無駄の排除	通年		
	水漏れがないことを定期的を確認する。	通年		
	積極的に井戸水を活用する。	通年		
受託産業廃棄物の再資源化率の向上	再資源化を行う処理業者がある場合は、再資源化を行う業者に処理委託するよう排出者に紹介することに努める。	通年	渡部	
自社排出産業廃棄物の再資源化率の向上	分別再資源化の徹底	通年	諏訪	